

アマミノクロウサギのフン

考えてみよう think

広いところでフンをするのはなぜ?



A

敵がきたとき
すぐわかるため

B

匂いが
くさいため

C

うっかり
ふまないため

ヒント：アマミノクロウサギは、夜行性で草食のおとなしいウサギのなかま。アマミノクロウサギは、12属78種いる野性のウサギのなかで、1属1種を構成する(近隣種が存在しない)ウサギのなかまです。奄美大島と徳之島にしか生息しない固有種で、小さい耳、みじかいうしろ足など、古い時代のウサギの特徴を持つため、「生きた化石」といわれています。なぜ奄美だけに生き残ることができたのかは、はっきりとしていませんが、大きな理由の一つとして、天敵となる大型の肉食獣が、奄美にはいなかったことが大きいと考えられています。しかし、それまで奄美にはいなかった動物(イヌ、ネコ、マングースなど)を人間が持ち込んだり、ダムやトンネルなどの開発によって、暮らしていた森が失われたため、急速に数を減らし、近い将来に絶滅してしまうのではと考えられています。見通しの良い広い場所でフンをするのは、一つには縄張りをしめすためであり、もう一つの理由としては、危険や異変が迫ってきても、すぐに逃げることができるためだと考えられています。